旧古河庭園

きゅうふるかわていていえん

開園　昭和 31 年（1956）4 月 30 日　　所在地　北区西ヶ原 1-27-39

開園面積　20,709.25 ㎡（令和 5 年 6 月 1 日現在）



バラ園と洋館



夏

武蔵野台地の斜面と低地という地形を活かし、北側の小高い丘には洋館を建て、斜面には洋風庭園、そして低地には日本庭園を配したのが特徴です。

この庭園はもと明治時代の外交官・陸奥宗光の邸宅でしたが、次男が古河家の養子になったのち、古河家の所有となりました。なお、この当時の建物は現存していません。

現在の洋館と洋風庭園の設計者は、英国人ジョサイア・コンドル（1852 ～ 1920）です。

日本庭園の作庭者は、近代日本庭園の先駆者とされ庭師・植治こと七代目小川治兵衛（1860 ～ 1933）の手によるものであり、彼は当園以外にも、山県有朋の京都別邸である無鄰菴、平安神宮神苑、円山公園、南禅寺界隈の財界人の別荘庭園などを作庭しました。

戦後、国へ所有権が移りましたが、地元の要望などを取り入れて、東京都が国から無償で借り受け、一般公開されました。

数少ない大正初期の庭園の原型を留める貴重な存在で、伝統的な手法と近代的な技術の融和により、和洋の見事な調和を実現している秀逸で代表的な事例となっています。また、現存する近代の庭園の中でも、極めて良好に保存されている数少ない事例として重要であることから、平成 18 年（2006）1 月 26 日に文化財保護法により国の名勝指定を受けました。

画像及び文章素材提供：公益財団法人東京都公園協会